

一般質問

佐藤 久哉 議員

- 介護保険事業について
- 再生利用可能エネルギーについて



議員

今後の介護事業の
担い手をどうするのか

町長 助け合いの仕組みを
つなげていきたい

佐藤議員

介護保険法の改正により、予防給付事業の中の訪問介護事業と通所介護事業については、平成29年3月末までに地域支援事業の日常生活支援事業に移行することになっていました。当初の移行時期を1年早めた理由をお聞きしたい。

町長

平成29年度は、第7期介護保険事業計画の策定年であり、前1年分の実績を得ることに より、保険料の算定に役立てよう と判断しました。

佐藤議員

今後、国が今まで示してきた良質で安価な、なおかつ地域の独自性のあるサービスを 行っていくには、池田町が既に 施行しているようなサービスの 段階的な分化、それから NPOやボランティア団体など の担い手の創出が必要だと 考えています。今後、どのよ

うにこの事業を充実させてい くのか、課題を解決していく のかお聞きしたい。



町長

総合事業や生活支援体制整備事業の基本は、「サービスづくり」ではなく「地域づくり」であるとの認識のもとに、地域住民ボランティアなどの 助け合いの仕組みを地域の中 につくり上げていくことが重 要であると考えています。そ のため、町民に介護の問題を 積極的に投げかけ、できるこ とは何かを話し合い、活動を 生み出すことができるようワ ークショップなどの場づくり、 仲間づくり、あるいは組織づ くりを支援していくことが必 要ではないかと考えています。

議員

エネルギーマネジメント
センターの概要は

町長 熱供給システムの構築と
施設整備を計画

佐藤議員

エネルギーマネジメントセ ンターの設立に向けて事業が 進められていますが、予定さ れている設立概要と事業内容 についてお聞きしたい。

町長

公民連携による設立に向け 研究を進めており、町内の木 質バイオマスなどを活用した エネルギーの需給量を把握 し、最適な熱供給システムの 構築と供給施設整備と人材の 養成を図ることとし、平成30 年の設立を目指しています。 事業内容は、町内の事業所 や公共施設などに対し、再生 可能エネルギー導入に関する 計画づくり、技術支援コンサ ルティング、林地未利用材の 流通システムの構築と運営、 木質バイオマスの仕入れ・原 料の製造、官民供給先への経 済的・安定的供給機能の整備、 木質バイオマス燃料等の広域 販売などを想定しています。



再エネ勉強会の様子

佐藤議員

センターの設立・稼働に向 けて町内の企業・団体などと のコンセンサスをどのように 取り付けていく考えなのかお 聞きしたい。

町長

今後、事業主体として意欲 のある民間事業者、団体、グ ループ等の参画と理解を得る ために、再生可能エネルギー を活用したまちづくりに関す る5回の勉強会を計画し、エ ネルギー関連会社や金融機関 にも参加を呼びかけ、再生可 能エネルギーを活用したまち づくりの情報を共有して、理 解者となっていたらどうかと考 えています。

一般質問

茂呂竹 裕子 議員

- 就学援助制度の改善について
- 生きがいセンターのバリアフリー化について



議員

教育長

就学援助

「新入学用品費」は
中学進学前に支給すべき

年度内実施に向け検討をしたい

茂呂竹議員

この質問は、前教育長に平成26年9月と今年3月議会会で2回質問し、3度目になります。

前回質問では、前教育長が退任されるため、「どのような対応が制度の趣旨に沿う支援策になるのかの検討を新体制に引き継ぎたい」、「就学援助は市町村独自の基準なので津別の基準ではできないが、先例もあるので調査させてほしい」でした。

私は町独自の基準であれば、経済的に困窮している家庭に喜ばれるように見直すぐらいいの考えがあつてもいいのではないかと考えるのですが、教育長は前教育長の答弁を引き継がれ、どのような対応を検討されているか伺います。

教育長

要保護、準要保護世帯に対する入学準備金に関しては、近隣でも関連する援助につい

て、前倒しで支給する方向で検討する自治体も出てきていることから、本町でもどのような仕組みであれば当該世帯のニーズにお答えすることが可能なのか、「中学に進学する場合は保護者の負担が大きいのので、小学6年の3月に入学準備金として支給すべき」との質問ですので、年度内実施に向け検討したいと考えています。

議員

「生きがいセンター」
の断熱、バリア
フリー化について

町長
改修を念頭に利用
団体と協議したい

茂呂竹議員

現在「生きがいセンター」は、建設から38年が経過し、老朽化していますが、地域に必要な施設です。



住民の高齢化が進み、玄関内外、集居室などの出入り口の段差が苦痛になっています。

建物の断熱が劣化し、冬期間は1時間前に暖房を点けても暖まらず、特にトイレについては非常に寒く、使用上の困難もあります。管理を任されている老人クラブの女性の方々は、清掃に大変苦勞をしていると聞いています。

ここは投票所にもなり、災害時の2次避難所の指定もされているので、選挙権や災害時避難者の安全を保障する視

点からも断熱を含めバリアフリーに改修すべきだと思いますが、考えを伺います。

町長

これまで高齢者に向けた段差、寒さ対策は、地域要望に基づき随時営繕を行ってきましたが、全体的な老朽化は進行していると認識していません。

しかし、地域住民や高齢者の活動拠点として今後とも活用できるものです。共和第3自治会からも段差解消やバリアフリー化に向けた内部改修の要望が出されており、他の使用団体などの意見も聞き判断したいと回答しました。

投票所に町有施設を利用させている町として、そのことが棄権につながっているなら問題を感じますが、スロープを用意し職員の積極的対応を行っているところですので、期日前投票の利用も呼びかけ、増加の傾向にあります。

また、2次避難所としては、耐震化されておらず適格ではないと考え、指定避難所の見直しを前提に対応したいと考えています。

一般質問

篠原 眞稚子 議員

- 防災・減災対策について
- 防災教育について



議員

町長

避難勧告、情報の伝達はどうか

広報車で注意喚起、戸別に対応した

篠原議員

8月中旬からの台風7号、11号、9号と8月31日の台風10号は道内各地に大きな被害をもたらしました。津別町においても、この間の台風により避難勧告が出されました。情報の伝達方法に課題がなかったのかどうか伺います。

町長

今回の一連の台風に関しましては、農地、道路、河川など大きな被害を受けたところです。台風11号では、津別川の増水が懸念されたため、本町、緑町3、豊永3、共和4の川沿い33世帯、55人に対して避難勧告を発令し、戸別に電話連絡し、出ない世帯については訪問により対応しました。避難勧告につきましては、関係する区域の自治会長に対しても連絡を行いました。勧告の対象範囲が明確に伝わらず、対象範囲以外の世帯に対しても連絡したことが判明

し、ご迷惑をおかけしたところ。今後は、避難情報とにあらかじめ伝達例文を備えておくこと、避難対策計画に記載されていないホームページによる情報の提供を強化する必要があると感じました。

篠原議員

避難するには準備情報があり、次に避難勧告、避難指示と段階があるようですが、どのように認識されているか伺います。

町長

避難情報は、危険度合いにより、避難準備情報、避難勧告、避難指示の順に段階的に発令しますが、それぞれの段階で住民の方が取るべき行動について、日ごろから広報などを通じてさらなる啓蒙を図っていきたいと考えています。

議員

小中学校における防災教育の現状は

教育長

地震や津波への理解を深める

学習を取り入れつつ

篠原議員

小中学校における防災教育の現状とジュニアリーダー育成の一環として「ジュニア防災検定」を導入する考えはないか伺います。

教育長

平成23年3月11日の東日本大震災以前は、校舎火災を想定し、学級単位ですばやく校舎を離れ、身の安全を確保することを目標に、消防の指導協力を得ながら実施してきました。東日本大震災以降、地震や津波についての理解を深め、地震、津波発生時の行動について考え、備えるための「防災に関する学習」を取り入れていきます。災害は学校に在る時間帯に発生するとは限りません。万が一の災害発生時、まずは自分の身は自分で守る行動がとれることを最重点目標としています。「ジュニア防災検定」のよう

防災知識の普及や、充実を図る仕組みなど、制度の検討が必要なることを承知していますが、義務教育段階においては、基礎基本の徹底に努めることが最優先課題と考えます。

篠原議員

避難所となる体育館で炊き出しや、子どもでもできる救護法などの体験をさせる考えはないか伺います。

教育長

災害を想定して教育課程に位置づけた宿泊訓練、避難所設営や炊き出し、停電を想定した暗闇での非常食による夕食、保護者への引き渡し訓練などの実践例は、実際にあります。これは応用編となることから、地域や大人と一緒に避難所の運営に参画できるように支援をしたいと考えています。



一般質問

村田 政義 議員

○ 家畜を扱う農家に対する発電機、配電盤の設置支援について



議員

村田議員

停電は、酪農業においてはバルククーラーが機能せず、牛乳の廃棄になりかねません。また、肉牛、育成牛を扱っているところは、冬期間の水道管凍結が危惧されます。停電対策として、発電機設置の支援ができないか伺います。

町長

過去に補助事業として、畜産リース事業に発電機が対象になりましたが、希望する農家はありませんでした。また、町の単独事業として実施することについて、JA、酪農振興会、肉牛振興会からの要望はありませんでした。

村田議員

停電は家畜農家に与える影響が大きく、被害を未然に防ぐためにも支援策を考えるべきではないか。また、災害対策用として、

停電に備え、酪農家へ
発電機の支援を

町長

実態を把握のうえJAと協議

町が何台かの発電機を購入し、貸し出しをする方法もあるのではないかと思います。いかがでしょうか。

町長



発電機は下水道への対応として一台あります。今回の台風で、網走川の樋門にリース会社から4台配置するのに、非常に手間とコストがかかっています。

来年の予算編成の中で、これらのことを考えようと思いますが、他の中小企業とのバランスを考えると畜産だけの対応は困難です。補助制度が現存しており、単独実施を検討するにしても、組合員の実態を把握し、JAが対策を決めたうえで町に要請があった場合は、検討することになると思います。

役場新人職員との 意見交換会を開催

これまで議会改革の取り組みとして、各団体などの意見交換会を開催してきました。

今回は、9月16日に役場新人職員（採用5年以内）との意見交換会を開催し、町の印象や将来に対する思いなど、さまざまな意見が出され、活発な意見交換会となりました。

津別町の印象

- ・ 川が多く釣りもでき、四季もはっきりして良い町。
- ・ 子どもへの補助も手厚いし、自治会でも交流があり住みやすい。
- ・ 結婚しても住む家や子どもを遊ばせる遊具がない。
- ・ 友達が遊びに来て「愛林の町なのにまちなかに木がない」と言われた。

提言

- ・ 女満別空港に公共交通を広域でつくり、自然だけでなく産業観光ツアーがあると良いのでは。
- ・ ランニングコースがない。
- ・ ランプの宿から津別峠に行



き、美幌峠に行くコースがあれば最高だが。障がい者施設がない。障がい者が町民と触れ合える場所があれば偏見・差別を払拭できると思う。

- ・ 1歳半検診で経過観察になる子どもが増えているが、近隣もいっぱい相談するところがない。「発達支援センター」があればいいのだが。
- ・ 民間力を使い单身、家族、高齢世帯が交じり合っているような住宅を建ててはどうか。
- ・ 街灯を木でつくればいいのでは。
- ・ 公園が沢山あるため、精査し集中した管理が必要。

※一部を掲載